

奈良県指定文化財 黒滝村旧役場庁舎 塗装等修理工事 仕様書

I 工事概要

- 1 工事名称 奈良県指定文化財 黒滝村旧役場庁舎 塗装等修理工事
- 2 工事場所 奈良県吉野郡黒滝村大字栗飯谷地内
- 3 工事期間 着 工：契約日の翌日
完 了：令和 8 年 2 月 27 日
- 4 工事対象 名 称：奈良県指定文化財 黒滝村旧役場庁舎
建築年代：明治 43 年
構造形式：本 館 桁行 10.91m、梁間 8.33m、洋風木造 2 階建、屋根寄棟造、棧瓦葺、階段室張出し付、屋根寄棟造、銅板葺
附属屋 桁行 13.79m、梁間 4.70m、木造平屋建、屋根東端寄棟造、西端本館に接続、棧瓦葺、縁側屋根銅板葺
備 考：半解体修理工事（昭和 55 年）、移築工事（平成 7 年）、塗装・部分修理工事（平成 15 年）

5 一般事項

- ① 本工事は黒滝村契約規則に準拠して実施する。
- ② この仕様書は工事の概要を示すものであり、施工の詳細は公共建築工事標準仕様書（建築工事編）等に基づくほか、材料の取扱説明書に記載の内容を順守する。
- ③ 施工に際して疑問が生じた場合は、係員の指示に従って誠実に履行する。
- ④ 資材や工数において比較的軽微な増が生じた場合も、請負金額は変更しない。
- ⑤ 本工事は奈良県指定文化財に関わる工事であることを認識し、その価値を損なわぬよう安全を確保したうえで施工する。
- ⑥ 工事場所の管理は関係法規に従い、指定場所以外での火気の使用及び喫煙等は一切禁止する。火災や人身事故等の防止には万全を期する。
- ⑦ 施工に際しては、既存の設備、地盤、植栽等に損傷を与えぬよう細心の注意を払い、万一損傷させた場合は材料、手間とも請負者の負担にて現状に復旧する。
- ⑧ 施工にあたっては現場管理人を定め、係員と工程を綿密に協議のうえ、工事の進行、調整を図る。施設利用者の混雑が予想される令和 8 年 8 月 9 日から令和 8 年 8 月 17 日は現場作業を休止する。
- ⑨ 工事に使用する材料はすべて係員の検査を受け、合格したものだけを使用する。
- ⑩ 工事写真は、工種ごとに施工前、施工中、施工後の段階でそれぞれカラー写真を撮影し、工事完了後にキャプションを付けて整理したアルバムと CD-ROM を発注者と監理者に 1 部ずつ提出する。なお、係員が写真撮影を実施するときは、清掃や作業の一時中断など、その指示に従う。
- ⑪ 工事は原則として、土曜、日曜、祝祭日は休業とし、作業時間は午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までとする。
- ⑫ 工事完了後は不要な資材等を適切に処分し、現場の清掃を行う。

II 工事内容

1 主たる内容

仮設工事	塗装工事に必要な足場を屋内外に設置し、作業完了後に解体する。
木工事	塗装工事に伴い木部の腐朽箇所を修繕する。
建具工事	塗装工事に付随して建具の解体復旧を行うと同時に立て付けを調整する。 また、ガラス留め材の破損箇所を修繕する。
塗装工事	本館において、屋外の全面と屋内の一部の塗装を塗り替える。
雑工事	本館の内部と付属屋の樋を清掃する。本館の石段、基礎、プラスター壁、レースカーテンを補修する。附属屋の天井の化粧石膏ボードを部分的に取り替え、本館接続部の熨斗瓦積みを補修する。本館と付属屋の棟面戸の漆喰土を補修する。外構において排水施設を整備するとともに、支障木を剪定する。

2 仕様

仮設工事	
主材料	丸パイプ 同上付属品 ジョイント、クランプ、固定ベース メッシュシート 足場板 ブルーシート 白 鋼製脚立
工法	塗装工事用の足場として、外部に単管本足場を、内部に脚立足場を設置する。単管本足場は外壁から 400 mm離れた位置に設け、足場の幅を 1,200 mm、高さを 8,400 mmとする。階数は4階とし、北面に登り栈橋を設ける。敷板上に固定ベースを通りよく並べて建地を設置し、布を取り付けるとともに、根がらみや筋交いを入れて補強する。粉塵の飛散を防止するために、壁面にはメッシュシートを張るほか、防水のためにブルーシートの屋根を設ける。脚立足場の床面からの高さは、1階では1,400 mm、2階においては1,100 mmを標準とする。いずれの足場も、組み立てと解体にあたっては資材の投げ渡しを禁止し、工具類を落とさないよう慎重に作業を進める。
木工事	
主材料	補足木材 補修部材と同種同等の材
工法	塗装工事に伴い木部の腐朽箇所を修繕する。部材の留めつけには釘等を用い、ビスは使用しない。補足木材の見え隠れには「令和七年度修補」と修理年号を刻印するほか、野物材については防腐処置を施す。
在来の仕様	本館 化粧材 ヒノキ小節 付け柱、付け框、軒蛇腹、胴庇、窓枠、額縁 スギ上小節 壁板 野物材 ヒノキ一等 土台、柱

	スギー等	胴底屋根板
建 具 工 事		
主 材 料	フロート板ガラス	厚さ 2 mm
	すりガラス	厚さ 2 mm
	パテ	
工 法	塗装工事に伴って建具を取り外し、作業完了後に立て付けを調整して復旧するほか、ガラス留め材の破損箇所を修繕する。	
塗 装 工 事		
主 材 料	ウレタン樹脂塗料（屋外）	
	木部の下地調整	セラックニス（東日本塗料）
	下塗り	1 液ファインウレタン U100 木部用下塗（日本ペイント株式会社）
	中塗り・上塗り	ファインウレタン U100（日本ペイント株式会社）
	色	緑系統（塗料用標準色 色票番号 L37-60D）
	艶	艶あり
	合成樹脂調合ペイント（屋内）	
	木部の下地調整	Hi-CR 下塗白（無鉛）（日本ペイント株式会社）
	下塗り	同前
	中塗り・上塗り	Hi-CR デラックスエコⅡ（日本ペイント株式会社）
	色	茶系統（塗料用標準色 色票番号 L17-60D）
	艶	5 分艶
工 法	屋外の全面と屋内の一部の建具について塗装を塗り替える。屋内は既存の塗膜と同じく合成樹脂調合ペイント塗りとする一方、屋外においては耐久性を考慮してウレタン樹脂塗料塗りとする。塗装方法は、既存塗膜の活膜を残して劣化部分を除去したのち、木部の下地調整を行ったうえ、3 回塗りとする。	
在来の仕様	<p>建物は平成 7 年に移築後、平成 15 年に外部の塗り替えを実施しており、塗装の年代については屋内が平成 7 年、屋外が平成 15 年とみられる。</p> <p>合成樹脂調合ペイント（平成 7 年）</p> <p>下塗り・中塗り SP ペイント（神東塗料株式会社）</p> <p>上塗り ペンフォルテ 600（神東塗料株式会社）</p> <p>同上（天井） SD ホルス 1000（関西ペイント株式会社）</p> <p>色 ライトグリーン（外部、天井）、ダークグリーン（正面階段の柱と手摺り、幅木）、やや濃口のベージュ（窓・出入口の額縁、扉、窓框・棧等）</p> <p>合成樹脂調合ペイント（平成 15 年）</p> <p>下塗り シンセイ下塗（株式会社トウペ）</p> <p>中塗り・上塗り シンセイ#100 富士（株式会社トウペ）</p>	

	色	緑系統（塗料用標準色 色票番号 B45-70D）
雑 工 事		
主 材 料	鉄平石	
	プラスター	
	化粧石膏ボード	
	レースカーテン	
	漆喰土	
	枀	内法 350×350×850 mm（蓋コンクリート）、300×300×800 mm（蓋グレーチング）、300×300×700 mm（蓋コンクリート）
	硬質塩化ビニル管（VP 管）	125A
工 法	樋	<p>本館各階の床、壁、天井を水拭きにより清掃する。落ち葉が堆積した付属屋南面の樋もあわせて掃除する。</p> <p>本館の石段と基礎が部分的に破損しているため、材料の再用に努めて修繕する。プラスター壁の剥落箇所を在来の仕様に基づいて補修する。レースカーテンが耐用年限を超え、破れが目立つため、すべて取り替える。</p> <p>付属屋の便所において、天井の一部に黒変がみられることから、化粧石膏ボードを部分的に取り替える。取り替えの際は黒変の原因について確認し、原因が特定できた場合は適切な処置を施す。本館接続部の熨斗瓦積みが乱れているため、補修する。</p> <p>本館と付属屋の棟面戸の漆喰土が破損しているため、すべて塗り直す。</p> <p>付属屋の北面は雨水の排水施設を備えておらず、本館の浸透枀についても目詰まりを起こしているため、一連の設備を改修する。縦樋の排水地点を中心に枀を設置し、VP 管を埋設して南東に位置する既存の側溝へ接続する。配管の勾配は 1/200 以上とし、枀の泥溜めは 150 mm以上の深さとする。枀を設置する際は再生クラッシュランを用いて厚さ 100 mmの地業を施す。蓋はコンクリート、グレーチングともに土砂が落下しにくい形状を採用する。飛石の解体にあたっては事前に番付を付し、作業完了後はそれぞれ元の位置に復旧する。なお、付属屋の縦樋を延長し、排水地点を枀の直上に変更する。</p> <p>このほか、建物南側の 5 本の支障木について、1 本を伐採、4 本を剪定する。</p>
在来の仕様	プラスター壁	
	下地	木摺り、フェルト紙、メタルラス
	下塗り	モルタル
	中塗り	白毛茛と砂少量を加えたプラスター
	上塗り	プラスター単材